

平成20年10月27日

各 位

上場会社名 スカイマーク
代表者 代表取締役社長 西久保 慎一
(コード番号 9204)
問合せ先責任者 経理本部長 有森 正和
(TEL 03-5402-6767)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成20年6月9日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

(金額の単位: 百万円)

平成21年3月期通期個別業績予想数値の修正(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円
前回発表予想(A)	48,300	100	200	200
今回発表予想(B)	43,000	2,700	2,400	2,100
増減額(B-A)	5,300	2,800	2,600	2,300
増減率(%)	11.0			
(ご参考)前期実績 (平成20年3月期)	50,373	3,224	2,749	2,627

修正の理由

平成21年3月期通期の業績予想について、最近の業績動向を踏まえて予想した結果、変動が生ずることとなった為、見通しを修正します。

その主な要因は、まず旅客需要の落ち込みと競争の激化があげられます。

次に燃油費の急騰によりコスト上昇があります。昨年の7月には1バーレル=60ドル台～70ドル台であったドバイ原油が、今年の7月には139ドルを越える水準まで高騰したことによります。2機のB767-300型機のリース期間満期に伴う機材の返還整備費も大きくコスト増加の要因となりました。

現在、運航機材をB767-300型機から運航効率の良い機材であるB737-800型機への変更を進めており、これにより、燃油費だけでなく機種統一化による整備コスト・運航コスト等の削減により抜本的なコスト構造の変革を進めております。期初、B767-300型機が4機、B737-800型機を6機で運航していましたが、当期末では、それぞれ2機と9機での運航となりコスト削減の効果がでてまいります。また、大きな設備投資の不要な既にある拠点同士を繋ぐ新たな定期路線の就航を予定しております。さらに、原油価格の著しい下落や円高傾向にある為替動向等の要因を加えた総合的な判断により、上記の通り業績予想を変更いたします。

(注)上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以 上